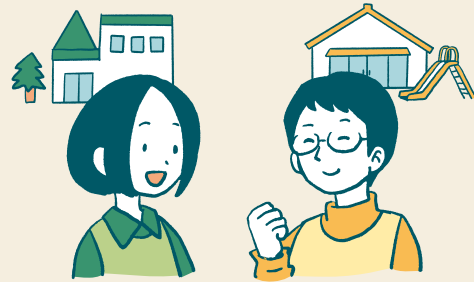


## 地域と連携しよう！

### ■ 近隣の施設や園と連携する

近隣の保育・子育て施設、自治会などと、日頃から関係を築いておきましょう。散歩の際に声かけしたり、災害時の対応について情報交換しておくことで、発災時の協力が円滑になります。



### ■ 外出時の対応を決めておく

散歩や園外活動中に災害が発生した場合に備え、園との連絡手段、避難場所を明確にしておきましょう。



## 保護者に伝えよう！

### ■ 保護者に園児の状況を伝える

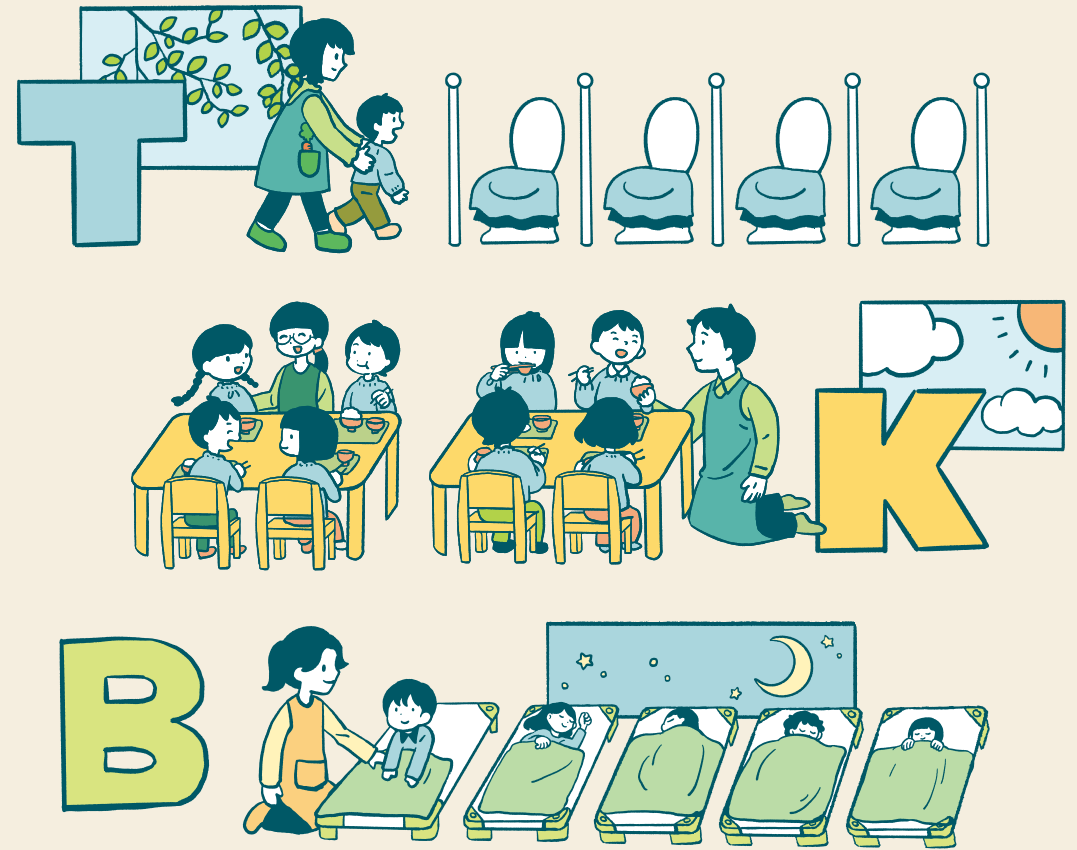
保護者の不安を軽減するため、安全が確保できたら園児の状況を保護者に伝えましょう。災害時の園の対応をあらかじめ伝え、連絡手段を決めておくことが効果的です。

# 港区のこどもを守る！

防災

# 保育施設の備え

T (トイレ・排泄) K (キッチン・栄養) B (ベッド・睡眠) を整えて園での避難生活に備えよう！



## 災害に備えて、いまから確認しよう！

事前に情報を確認しておくことで、発災時に行動しやすくなります。下記のサイトを確認するほか、緊急時連絡先一覧（園医など）を用意しておきましょう。備蓄品の保管場所や数量などがわかるチェックリストを作ると、職員間で共有しやすく、不足品もわかりやすくなります。

### ■ 港区防災ポータルサイト

<https://city-minato.my.site.com/>

緊急情報や避難情報、避難所の開設状況などの情報が掲載されます。震度4以上の地震が発生したときや警報発表時等に、災害時モードに切り替わります。



### ■ 帰宅困難者への港区一時滞在施設

<https://www.city.minato.tokyo.jp/chiihibousai/kitakukonnai.html>

帰宅困難者を一時的に受け入れる施設です。

災害時に帰宅困難者が園に来られた際は、こちらをご案内することができます。



### ■ 携帯トイレの使い方ポスターなど

<https://www.toilet.or.jp/pickup/bosaitoilet/>

携帯トイレの使い方ポスターや、安心して使うことができる携帯トイレ製品の「規格適合製品リスト」などを掲載しています。

(日本トイレ研究所 HP)



港区では、大きな災害が起きて公共交通機関が止まった場合、3日間の帰宅抑制（職場にとどまること）を事業者の責務としています。保護者が迎えに来られない場合を想定し、園にとどまるための備えが必要です。ライフラインが止まったとき、園児と職員の健康を守るために大切なのが「快適に使えるトイレ（T）」「温かい食事をつくるキッチン（K）」「安心して休めるベッド（B）」の備えです。本リーフレットの内容をきっかけにして、園の備えについて話し合ってみましょう。

# TKBから保育施設の備えをみなおそう

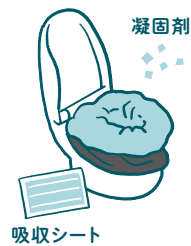
施設のどこで・どのように使うかを確認し、発災時に行う手順やルールを決めておくことが大切です。実際に使って、気づくことが、実践的な備えにつながります。以下を例に、園での備えについて話し合ってみましょう。

## T トイレ 排泄

災害時には、断水等で水洗トイレが使えなくなります。トイレが不便・不衛生だと、水・食料を控える原因になります。携帯トイレを備えましょう。

### ■携帯トイレを備える

トイレを使う子ども・職員には、便器にとりつけて排泄する袋タイプの「携帯トイレ」が役立ちます。最低3日分(園にとどまる日数)を備えてください。日頃のおむつもローリングストックできると効果的です。



$$\begin{matrix} \square & \times & \square & \times & \square & = & \square \\ \text{子どもと} & & \text{トイレに行く回数} & & \text{備える日数} & & \text{必要な数} \\ \text{職員の人数} & & & & & & \end{matrix}$$

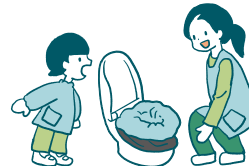
### ■照明・衛生用品を備える

停電するとトイレは真っ暗になります。両手が自由になる置き型の照明が便利です。手指消毒などの衛生用品やおしり拭きは、様々な用途で有効活用できます。



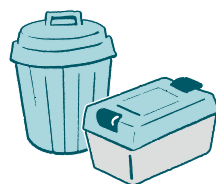
### ■子どもと一緒に練習する

携帯トイレなどの災害時対応を日頃から練習して慣れておくと、災害時の子どもの不安を減らすことにもつながります。



### ■使用済み携帯トイレの保管場所を決めておく

ごみ収集の再開まで衛生的に保管できるよう、ふた付きのごみ箱など保管場所を決めておきましょう。使用済みのおむつ入れを活用することもできます。



## K キッチン 栄養

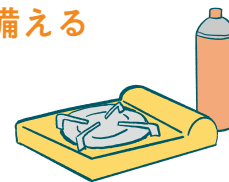
冷たい食事が続くと食欲がわきません。最初はすぐに食べられるものを提供し、時間経過とともに温かい食事を出せるようにしましょう。

### ■提供の順番(献立)を考えておく

災害時は食材や調理環境に限られるため、どの順番で、何を提供するかを事前に決めておくことで、混乱を防ぎます。ずっと同じ献立が続かないようにすること、甘いものを用意しておくことも大切です。また、備蓄している食品を子どもが試す機会を作り、どうしても食べられない場合は変更を検討してみましょう。

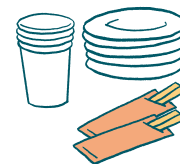
### ■カセットコンロ・ボンベを備える

停電やガス停止時でも調理や湯沸かしができるよう、カセットコンロとボンベを十分な本数備えておきましょう。



### ■使い捨ての容器を備える

断水していて洗いができない場合を想定して、使い捨ての容器・カトラリーを備えておきましょう。ラップをお皿に敷く方法もありますが、使用時にラップが破れることもあるので、使い捨て容器があると安心です。



### ■食べる場所・寝る場所をわけて衛生を保つ

ライフラインが止まると、食べこぼしの掃除などを普段通りに行うことが難しくなります。衛生を保つために、食べる場所と、寝る場所を分けることが効果的です。部屋数が足りず、同じ部屋の中で食事・睡眠をとる必要がある場合も、できるだけエリアを分けるようにしましょう。

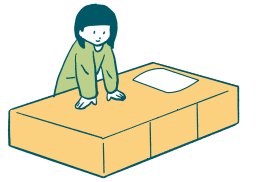


## B ベッド 睡眠

子どもと職員が安全で衛生的に休める環境を整えましょう。

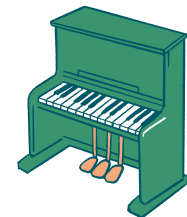
### ■子ども・職員の寝具を備える

園での避難生活が必要になった場合には、使い慣れた子どもの寝具を活用しましょう。職員には段ボールベッド等を備えることが大切です。冬場の寒さ対策も考慮しましょう。



### ■安全な睡眠スペースを確保する

転倒・落下の恐れがある備品等を明確にし、職員全員が把握できるようにしましょう。大きなけがにつながるものから固定すると対策が明確になります。固定できないものはけがを防ぐ方法を話し合しましょう。普段から危険の少ないスペースを作っておくことが必要です。



大きなけがにつながるものから固定

### ■暑さ・寒さ対策を考える

暑さ・寒さ対策のために電力確保ができるか確認しましょう。非常用発電機は、どのくらいの電化製品を何時間動かせるのか試して、優先的に使うものを決めておきましょう。エアコンが使えなくても、スポットクーラーなら使えることがあります。複合施設内やビル内に設置されている保育施設では、建物全体で非常用電源を備えている場合、自施設(園)が確保できる電力量を確認しておくことが必要です。

